

## 栗島 亜希子 氏 学位審査結果の要旨

主査：木梨 達雄

副査：藺田 精昭、権 雅憲

潰瘍性大腸炎などの炎症性大腸疾患は近年増加傾向にあり、その病理学的機序および治療開発が重要な課題となっている。申請者らは DSS 誘導大腸炎マウスモデルにおいて腸管粘膜に抑制性受容体である PIR-A/B を発現する CD11c 陽性樹状細胞(DC)が出現することを見出した。PIR-A/B 陽性 DC は大腸炎発症から回復過程にかけて誘導され、TGF $\beta$  や IL-10 などの抑制性サイトカインを産生し、アロ抗原提示を抑制する機能を持つ細胞であった。さらに単離した PIR-A/B 陽性 DC をマウス腹腔に投与することによって DSS 誘導大腸炎を抑制することを示した。これらのことから PIR-A/B 陽性 DC が免疫制御機能をもつことが示された。今後、細胞治療などの臨床的応用を考案する上で有用な細胞であることが示唆され、審査の結果、学位に値する研究と判断した。